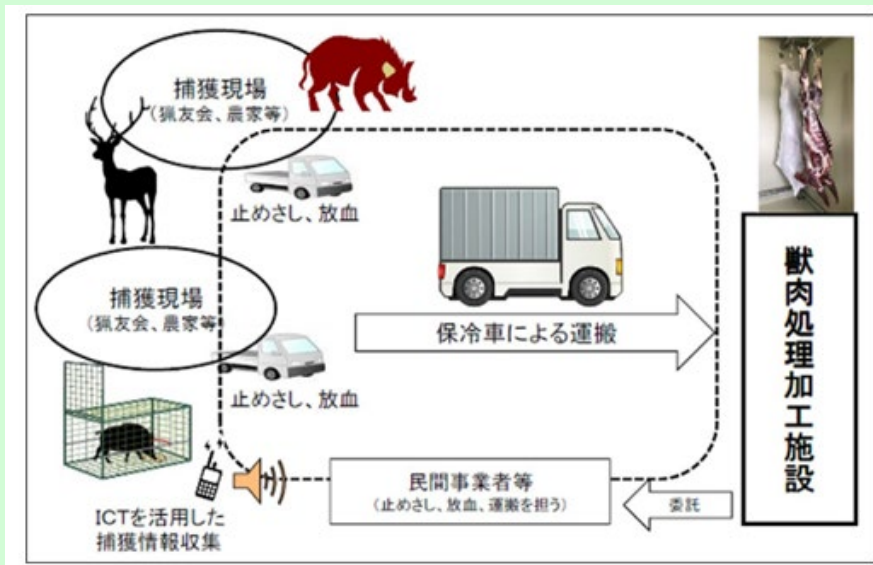


獣肉の新たな供給体制モデルの実証(福岡県糸島地区・添田地区)

- モデル地区において、狩猟者の負担となる止めさしや放血から獣肉処理加工施設までの運搬を、民間事業者であるALSOK福岡(株)が担う新たな供給体制を実証

取組内容

- モデル地区の関係者(市町村、処理施設、狩猟者、農業団体等)で組織する推進会議を設置
- ALSOK福岡(株)を対象に止めさしや放血等の技術習得研修を実施
- ICT機器を活用した捕獲通知システムや、ジビエ専用保冷車を活用し、省力的で衛生的なジビエ供給体制を実証



成果

- 処理施設での処理頭数は、設定した目標の98%(2地区合計、R2年度)で、R1年度の141頭からR2年度の255頭に増加(2地区合計)
- 今後はモデル地域内外でさらに活動範囲を拡大

獣肉の新たな供給体制モデルの実証(福岡県糸島地区・添田地区)

きっかけ・背景

- 獣肉処理加工施設の処理頭数が伸びない状況

課題

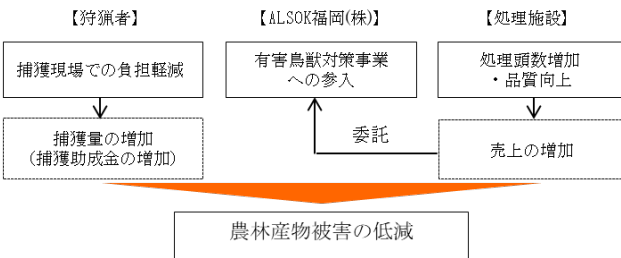
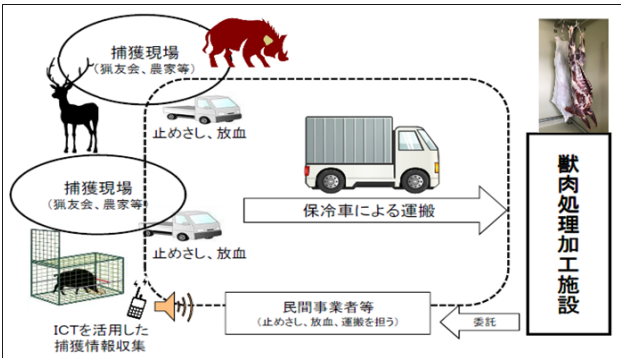
- 捕獲現場での処理から、処理施設への運搬までを行う労力が不足

Step1 モデル地区設定 (R2)

- 処理施設はあるが、処理頭数が伸び悩んでいる糸島地区と添田地区をモデル地区に選定

Step2 プラン策定 (R2)

- 地域の関係者(市町村、処理施設、狩猟者等)で構成する推進会議を設置し、民間事業者と一体となってプランを策定



取組の特色

- 現場で技術習得研修を実施しながら、供給体制モデルの実証をすることで、民間事業者のスキルアップを加速
- ICT機器を活用した捕獲通知システムやジビエ専用保冷車を導入することで、省力的で衛生的なジビエ供給体制を構築

ジビエ専用保冷車



ICT機器を活用した箱わな



Step3 取組実証 (R2)

- ICT機器を活用した箱わなやジビエ専用保冷車を導入し、止めさしから処理施設までの運搬を民間事業者が担う取り組みを実証

取組による成果・効果

- 処理施設での処理頭数は、設定した目標の98%(2地区合計、R2年度)で、R1年度の141頭からR2年度の255頭に増加(2地区合計)

今後の課題

- 民間事業者が活動を継続するためには、活動範囲の拡大が必要